

研修冊子

令和6年度研究大会 各務原市 PTA 連合会

# 実践発表 & 子育て講演会

学びを通してつながろう！ かかみがはら PTA

## 日時・開催方法

★実践発表配信	令和7年1月25日(土)～3月31日(月)
★子育て講演会配信	令和7年1月25日(土)～2月25日(火)
★研修冊子ダウンロード	令和7年1月25日(土)～3月31日(月)
★報告冊子ダウンロード	令和7年2月28日(金)～3月31日(月)

<研修冊子の内容>

1. 市P連会長あいさつ

2. 実践発表

① 蘇原第二小学校PTA

「子育て広場の紹介」

② 鵜沼中学校PTA

「鵜沼中校区 あいさつの日  
活動について」

3. 子育て講演会

講師 西野 博之 氏

「そう考えればよかったんだ！ ～子育てで大切なこと～」



各務原市 PTA 連合会

## ごあいさつ

日頃は各務原市 PTA 連合会への活動にご理解、ご協力誠にありがとうございます。

今回もオンライン開催となりました研究大会ですが、もうすっかり定着したようで、こうして無事に開催できることをうれしく思います。

今年度の大会テーマは「学びを通してつながろう！かかみがはら PTA」です。研究大会での 2 校 PTA の実践発表や講演会を通して、各務原市の各小中学校 PTA が共につながり、情報を共有し、さらなる学びを得て、新しい時代に合った活動を見つけていきたいと思えます。

本大会に向けて、実践発表の発表校となりました蘇原第二小学校並びに鶴沼中学校の単位 PTA 会長をはじめとする本部役員の皆様方、そしてご協力いただきました保護者の皆様に深く感謝申し上げます。実践発表は、普段知ることのない他の小・中学校の PTA 活動を知る良い機会であり、今後の各学校の PTA 活動のヒントを模索していただき、子どもたちのより良い成長と教育環境の向上を目指し、PTA 活動の意義を共に再確認していただけたら幸いです。

続いて、講師講演は認定 NPO 法人フリースペースたまりばの理事長 西野 博之さんをお招きしております。昨年の夏、全国 PTA 研究大会 川崎大会でも講師を務められその時、私を含む参加者一同が深く感銘を受けました。今回、各務原市の保護者の皆様にもぜひ聞いていただきたいという想いから、先生をお招きする機会を得ましたことを嬉しく思います。保護者の皆様の悩みにより共感できるような内容になっております。また、西野先生のご厚意により動画は 2 時間近いものとなっておりますが、お好きなペースでご覧ください。

今回の実践発表および講演について、皆様からのご意見や感想を伺いたく、アンケートを実施しております。いただいたご意見は、今後の企画や運営の参考にさせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

研究大会が、皆様にとって有意義な学びや気づきの場となり、今後の PTA 活動に繋がることを心より願っております。どうぞ最後までごゆっくりとご参加ください。

各務原市 P T A 連合会 会長 土方 隆行

## 令和6年度 蘇原第二小学校 PTA 実践発表資料 『子育て広場の紹介』

### 1. はじめに

蘇原第二小学校(以下蘇二小)は、1972年に各務原市立蘇原小学校(現蘇原第一小学校)から分離・独立して開設され、2021年に創立50周年を迎えた。在校生や卒業生からメッセージや写真を提供していただき、それらを組み合わせて小学校をモザイクアートにした下敷きを作製した。その他にも、クリアファイルや小学校紹介DVDを作製するなど、成果を伴う50周年となった。



モザイクアート(下敷き)

蘇二小の主な特色として、「ミニミニアクア・ト」と「蘇二っ子トープ」が挙げられる。「ミニミニアクア・ト」とは、10種類50匹ほどの淡水魚を大小10個の水槽で飼育し、蘇二小の玄関に設置した場所のことである。シニアクラブが近隣の川で釣った魚で、週に1回衛生管理を行っている。エサやりは児童が担当し、淡水魚を身近に感じることができる。また、年に1回シニアクラブによる近隣の川で獲れる魚の話、新1年生の授業に取り入れている。



ミニミニアクア・ト

「蘇二っ子トープ」とは、小さいながらも校庭の隅に展開しているいわゆるビオトープで、ザリガニやカエル、アメンボなどが多数生息している空間である。休み時間や放課後に、多くの児童が生きものと触れ合うことのできる人気の遊び場である。「蘇二っ子トープ」は、PTAや近隣の地域の方々(主に児童の保護者)によって安全に遊ぶことができるよう管理されている。



蘇二っ子トープ

### 2. 活動内容

今年度の夏休みのPTA活動の一つとして、岐阜県が推進する「話そう! 語ろう! わが家の約束」運動を第1回子育て広場として実施した。テーマは「家族の一人としてお仕事をしよう」で、家族で話し合ってお手伝い(仕事)を決めて表にまとめ、ビンゴゲームのように楽しみながら自分の役割を果たし、達成感を味わうとともに仕事の大切さを学んで欲しいと考えた。

#### (1) 目的

- ①家庭内コミュニケーションを深め、子どもの健やかな成長を目指す
- ②仕事の大切さを学び、家族の一員としての役割を果たす

#### (2) 期間

- ①夏休み

#### (3) 進め方・方法

- ①家族で話し合い、お手伝い(仕事)を決めて、カードに記入する
- ②お手伝いしたらマスに好きな色を塗り、ビンゴを目指す
- ③実施中や実施後に家族でお互いの思いを伝える(頑張りを認め、褒める、励ます等で子どもの自己肯定感を高める)
- ④次のお手伝いを決め、約束について話し合う

### 3. 実践事例



お手伝いビンゴ

#### (1) 親子のやり取り例

左:①子どもから家族へのメッセージ  
お母さんがいつもぼくのためにむずかしいお仕事をやってくれてありがとう。

左:②保護者から子どもへのメッセージ  
毎日色々なお手伝いをしてくれてありがとう。とても助かりました。

右:③子どもから家族へのメッセージ  
家の中全体がきれいになってうれしかったです。母ちゃんが「きれいにしてくれてありがとう」と言ってくれてうれしかったです。

右:④保護者から子どもへのメッセージ  
いつも自分から気付いて行動してくれてありがとう。母ちゃんとってもたすかっています。

#### (2) アンケート結果

##### ①児童アンケート(1~3年生)(n=90)

- ア. あなたはなんねんせいですか  
1年生:21%、2年生:48%、3年生:31%
- イ. お手伝いビンゴをしてどう思いましたか(複数回答可)  
お手伝いがんばった:34%、家族と話し合いながら

お手伝いをした:9%、もっとたくさんお手伝いできたらよかった:11%、大変だった:11%、これからもお手伝いをしたい:23%

ウ. これからも家族の人と決めた約束を続けたいと思いますか

続けたい:80%、どちらともいえない:20%

##### ②児童アンケート(4~6年生)(n=100)

ア. あなたはなんねんせいですか

4年生:32%、5年生:21%、6年生:47%

イ. お手伝いビンゴをしてどう思いましたか(複数回答可)

お手伝いがんばった:36%、家族と話し合いながらお手伝いをした:11%、もっとたくさんお手伝いできたらよかった:11%、大変だった:20%、これからもお手伝いをしたい:22%

ウ. これからも家族の人と決めた約束を続けたいと思いますか

続けたい:82%、どちらともいえない:15%、続けたくない3%

##### ③保護者アンケート(n=123)

ア. 取り組みの内容は分かりやすかったですか

とても分かりやすかった:68%、どちらかといえば分かりやすかった:31%

イ. 家族の一員としてお手伝い(仕事)をすることについて、お子さんの意識は変わりましたか  
変わった:26%、少し変わった:53%、変わらなかった:21%

ウ. 親子でコミュニケーションを深めるきっかけになりましたか  
なった:31%、どちらかといえばなった:61%、どちらかといえばならなかった:7%、ならなかった:1%

#### ④感想等自由記載

多種多様のため割愛。

#### 4. まとめ

家庭内での積極的なコミュニケーションを通じ、家族の絆が深まり、子どもは安心感の中で健やかに成長できたと考える。また、日常生活でのお手伝いを通して家庭内での役割の重要性を学び、自立心や他者への配慮も向上するような、さらなる子どもの成長を願う。

令和6年度 鵜沼中学校 PTA 実践発表資料  
『鵜沼中校区「あいさつの日」活動について』

1. はじめに

本校は、1947年に設立され、1961年に各務中と統合し現在に至っている。本年度の生徒数は513名で、鵜沼第一小学校区、八木山小学校区、各務小学校校区の子どもたちが通う中学校である。



本稿では、鵜沼中学校区で取り組んできた「あいさつの日」の実践を記述する。

2. 鵜沼中校区コミュニティースクール

(1) 概要

◇鵜沼中学校区学校運営協議会(通称 うちゅう つながる 学園)は、学校・保護者・地域住民との信頼関係を深め、児童・生徒の健全育成に取り組む協議会として令和元年度に発足した。

うちゅう つながる 学園 学校運営協議会

鵜沼中学校区 願う児童生徒の姿

「自ら考え、進んで行動する子」

○主体性 ○社会性 ○自己肯定感

**地域** スタイル1 地域の方による学校教育への参加

**学校** スタイル3 学校間連携

**家庭** スタイル2 子どもたちの地域参画

鵜沼第一小学校 SDGs地域の方の講話 八木山小 オリエンテーション 鵜沼中 高齢者宅訪問 各務小 緑みこし

地域ぐるみ あいさつの日(6月・11月の第1水曜日)

学校運営協議会

学校・保護者・地域住民がよさを見つけてほめて育てる鵜沼中校区

子どもたちの育ちは、連続しています。「学校」「地域住民」「保護者」が協力して「地域の子どもたち」の願う姿を考え、実践していくことが、地域の中での小中一貫教育につながります。

社会を取り巻く環境は著しく変化しており、未来を担う子どもたちが豊かに成長するためには、社会総がかりでの教育の実現が不可欠であり、「地域とともにある学校づくり」を目指すコミュニティ・スクールは、なくてはならない活動です。

誇り・やさしさ・活力があり、郷土を愛する児童生徒の育成を、義務教育9年間を通して地域全体で取り組むのが、各務原市が目指すコミュニティ・スクールです。

◇委員は4校の PTA 会長、小学校区自治会長、地域代表、青少年教育指導員、4校の校長で構成されている。

◇願う児童・生徒の姿を「自ら考え、進んで行動する子」とし、自己肯定感、主体的な学び、社会性を育てる活動を行う。

◇保護者(PTA)と地域住民は、子どもたちのよさを見つけ、ほめて育てる活動を行う。

◇「互いにあいさつを交わして 温かい関係づくりの土台を育む」をスローガンとしている

うちゅう つながる 学園  
マスコットキャラクター



<キャラクターについて>

狼：仲間と協力して  
生きている動物  
宇宙：うちゅう  
人参：鵜沼の名物  
ミソ：みんな違う  
つながり  
飛行機：航空産業

<名前について>

英語で狼はウルフ  
うるま  
鵜沼は大昔 宇留間  
人が集まる  
人が繋がる  
笑顔が満ちる 鵜沼  
繋がる＝輪っか＝丸

◇マスコットキャラクターとして「うる丸」を作成。本校生徒がデザインした。

(2) 具体的な活動

活動を考えるにあたり、「地域に根付く」「子どもも大人も関われる」「お金をかけずにできる」という3点を条件にした取り組みにしたいと考えた。

当時、登校する子どもたちのあいさつが少ないと保護者や地域から意見が出ていたということもあり、子どもも保護者も地域も巻き込んだ「あいさつの日運動」を企画した。

3. 活動内容

(1) 「あいさつの日」の内容

◇6月・11月の第1水曜日を「あいさつの日」とし、

子どもたちの登校時間(7:20~8:00)にあいさつ活動を行う

◇子ども、保護者、地域の人みんなで行う活動とする

◇場所は校門前や通学路、自宅前などどこでもよいこととする

(2) 校区内への周知方法

◇手作りチラシの作成

鶴沼中校区 学校運営協議会  
「あいさつの日」ご協力のお願い

**11月6日(水)** うる丸

皆様と一緒に！  
**あいさつの日R6 2回目**  
うちゅう つながる学園  
【鶴沼中 鶴一小 八木山小 各務小】  
通学路7:20~ 学校門付近7:40~  
8:00ごろ児童生徒の登校が終わるまで  
皆さんそれぞれができる時間、できる場所で構いません。  
この日は自宅近くの通学路で子どもたちや近所の方とあいさつをしましょう！  
企業の方は少し早く出社して職場の前で子どもたちとあいさつをしましょう！  
小中学校に行ける方は校門やその周辺であいさつをしましょう！  
町中があいさつであふれる朝なんて素敵じゃないですか？  
子どもたちの元気なあいさつがあふれる地域へ



◇チラシを市広報誌への折り込み依頼(7,700枚)

◇各校のホームページにチラシ掲載とスマート連絡帳での送信



◇各校に「あいさつの日」黄色旗設置

◇アンケートによる参加者数の把握

(3) 実際の活動

1回目となる6月5日を迎えるにあたり、広報紙への折り込みや、各校のホームページへの掲載、事前の児童生徒からの地域への案内等宣伝活動に取り組んだ。その効果もあって、当日は保護者や見

まもり隊、地域企業の方々など合わせて約450人の参加があった。



2回目の11月6日も1回目同様に宣伝活動を行い、約360人の参加があった。

参加者からは、以下のような感想をいただいた。

・登校前に子どもから「今日はあいさつの日だよ！」と言われ、自分から声をかけようと思ったが、通学中の子に先にあいさつをしてもらった。実施日を増やしてほしい。

・顔見知りでない中学生数組もみんな元気にあいさつを返してくれうれしかった。

・朝から子どもたちに元気な笑顔とあいさつをもらえ、とても素敵な朝になった。

・小学校の見まもり隊さんから、あいさつ運動のおかげで、朝あいさつをしてくれる中学生がいてうれしい。もっと期間を長くしてもいいと言われた

4. まとめ

活動後、運営協議会内で振り返りをしたところ、以下のような意見が出された。

・あいさつは、誰でも参加でき、地域を明るくし、子どもたちの健全育成に効果のある「万能薬」

・あいさつの日を設けることで、自然とあいさつが増えていき、それに伴って笑顔も増えていく(うれしかったという声が多い)。さらにあいさつの日を増やして欲しいという意見もある

・あいさつの日を鶴沼中校区だけでなく、各務原市内の校区や県内、東海地区、全国の小中学校に広げたら素晴らしいと感じた。

今後も地域が一体となってあいさつが交わされる「あいさつの日」をめざして活動していきたい。

# 令和6年度 各務原市PTA連合会 研究大会 子育て講演会

『そう考えればよかったんだ！ ～子育てで大切なこと～ 』

講師 西野 博之 氏

西野さんは、神奈川県川崎市にある NPO 法人「フリースペースたまりば」の代表として長年活躍されている方です。「フリースペースたまりば」は、不登校や学校生活に困難を抱える子どもたちが自由に過ごし、自分らしさを取り戻せる場所を提供する活動を行っており、その温かいサポートと実績で多くの家庭を支えてきました。

また、西野さんは子ども一人ひとりの個性を大切に、学校や社会と新しいつながり方を提案する専門家でもあります。これまでに多くの講演や執筆活動を通じて、日本の教育の可能性を広げるためのメッセージを発信してこられました。昨年8月に開催された日本PTA川崎大会でも講演をされています。

本講演では、教育現場や家庭でどのように子どもたちを支えることができるのか、西野さんの豊富な経験と知見をもとにお話しいただけます。

公開期間 令和7年1月25日～令和7年2月25日

なお、講演会の動画を視聴するには視聴用のパスワードが必要です。

